



きずな

ドリームKブロック

ドリームリーグKブロックは、西野第二B、白楊、大麻ジュニア、八軒北、レアリッザーレ、星置、ニューノース、伏古、和光の9チームで戦いました。各チームとも6年生がよく声を出し、それぞれのチームの持ち味を発揮して、勝点も拮抗して活気あるリーグ戦となりました。

優勝は伏古。ラスト2試合をスピードとパワーで16得点で連勝。勝点36を獲得して見事な逆転優勝でした。惜しくも勝点34で準優勝となった星置は、ゴールキーパーを中心にすばらしいチームワークで、高い守備力を発揮しました。3位は前節まで1位でしたが最終2



試合を連敗して勝点32で大麻ジュニアでした。全試合を通じ各チームの選手はフェアプレー・リスペクトを意識したプレーを行っていたと感じられました。審判についても初めて主審をされる方がいられましたが、会場校、両ベンチの協力を得ながら審判に取り組んでいました。

リーグ戦は、すべての日程で天候に悩まされる事無く、各会場校のご尽力で無事に全試合を予定通り消化することができました。また、八軒北小では体育館を提供していただきバーモントカップの直前でのトレーニングゲームを行う事が出来ました。サポーターの応援も熱心であたたかく、子どもたちは伸び伸びとプレーすることができていたと思います。会場使用や駐車台数等でのトラブルもなく、円滑にリーグ戦を運営することができました。



ドリームリーグ J グループ

ドリームリーグ J グループは、元町 FC、真駒内南、琴似中央、札幌緑、菊水、前田北、八軒西、Safilva 三角山 U-12 の 8 チームで試合を行いました。パスを丁寧につないで行くチーム、スピードのある選手がドリブルで突破して行くチームなど、各チームが特色ある力を発揮しての戦いとなりました。

優勝したのは元町 FC。大柄の MF にボールを集め、確実に点を決めて行く試合展開が印象的でした。

キャプテンの選手は「ゲームの内容はまだまだ納得のいかないものだったが、チームの皆で力を合わせ優勝する事が出来て良かった。」と話してくれました。また手強かったチームはどこだったかと尋ねると、琴似中央、真駒内南とのこと。それらのチームとの試合結果は、1-0 または 0-0 とお互い譲らない接戦となり、元町 FC の選手たちにとっても印象に残る対戦相手となったようです。



(優勝した元町 FC)



(ボールを追いかける選手たち)

5月9日。雪解けとともにリーグ戦はスタートしました。一順位では大差で勝てたチームでも二順位では接戦となったり、またその逆もありました。負けても挽回のチャンスがあるリーグ戦。よし、次こそは！と選手たちも頑張ってきたことでしょう。

JFA は『リーグ戦はただこなして順位を決めればいいのかではなく、できるだけ長期にわたってリーグ戦を行い、選手の育成の機会を作ることが最も大切なことの一つ』としています。

どのチームの選手たちも、試合を重ねるごとに自分たちの試合をするべく力を尽くし、走り抜き、結果を残しました。8月29日、リーグ戦最終日は秋風の吹くすがすがしい日でした。そしてしっかりと成長を遂げた選手たちの顔は凛々しく感じました。



リーグの運営に当たり、参加チームの指導者・保護者の皆様のご協力により、円滑に進みましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

フューチャーMブロック

フューチャーリーグMブロックは、しらかば台、札幌西、大麻キッカーズ、琴似、蹴道、ステラポラーレ、One-Eight、石狩FCホワイト、FCコラージュの9チームで戦いました。各チームとも6年生がよく声を出し、それぞれのチームの持ち味を發揮して、活気あるリーグ戦となりました。

優勝はOne-Eight。全体的にまとまったチームで大勝という試合は無かったのですが、きわどい試合に粘り強く戦い勝点33を獲得して堂々の優勝でした。このフューチャーリーグMブロックは、チームに大きな差がなく拮抗した試合がとても多く、自分が経験したリーグ戦の中では一番選手、父母、指導者にとって楽しいリーグではなかったかと思えます。1回戦では負けたが2回戦ではリベンジを果たすという結果が多



く選手たちのモチベーションも高いまま終了を迎えました。長い期間でのリーグ戦で大きな差が最後まで出なかったということは、各チームのレベルアップが出来たことを証明していると思います。昨年度の実績をもとに組まれている4種のリーグ戦としてはかなりうまくいったリーグです。来年度以降もこのようなリーグが組めればとも思いますが現実としてはなかなか難しい部分が多いことも確かです。地域の少

年団とクラブチームとの関係をスムーズにしていくことも重要なことと思えます。

フューチャーリーグMブロックは、4月の第1節から最終節まで中止、順延もなく予定通りに消化出来ました。そういった意味でも成功した年だったのではないかと思います。

段取りをしていただいた連盟事務局の方々、各チームの父母、指導者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。選手たちにとってももう少しで勝ちが手に届く、また気を抜くと負けてしまいますという緊張感を持った戦いが出来成長につながったと思えます。

全日少予選にうまく繋がるように来年度はより良いリーグ戦を組めるよう指導者として微力ではあるが協力をしていきます。

